

／みんなが創る！みんなで守る！／

かみすの医療しり

Vol. 4

医療政策の現状や課題をお知らせします
皆さんの賛同と参加をいただきながら、
全力で取り組みます



若手医師きらっせプロジェクト推進会議



地域医療トーク&トーク



地域医療シンポジウム



若手・修学生医師症例等発表会



医療の現場で学ぶ 夏休みメディカル教室



「みんなが創る！みんなで守る！かみすの医療」。全員参加の医療体制づくりにご尽力いただいている皆さんに心から感謝申し上げます。

救急や在宅のワーキングチームなどで合意した新しい取組がひとつひとつ実現し、さらに進化しています。病院や診療所では、課題や目標を共有し、求められる医療提供に向け、施設整備やスタッフの充実、そして相互の役割分担と連携強化に力を注いでくれています。

昨年度、修学生医師が市内勤務をスタートしてくれました。また、昨年開催した地域医療シンポジウムをきっかけに、市の取組に関心を寄せる全国の医学生が何度も訪問してくれています。若い医療者の期待に応える魅力あるフィールドづくりに励みたいと思います。

これからも、いろいろな課題に挑み、市民や企業、医療機関の皆さんの賛同と参加を得て、あるべき医療体制の実現を目指します。

—ムードが変わってきた—

市長 永井先生に神栖市のご指導をいただくようになって7年目を迎えます。今年4月早々に、神栖産業医トレーニングセンター(トレセン)で研修する新人医師8人があいさつに来てくれました。市内で働く若い医師が増えたり、市の修学生の応募が増えてきています。

永井 きらっせプロジェクトの交流会でも、症例発表する若手医師、質問を投げかける研修医や医学生、指導する先輩医師がとても良い雰囲気で見聞を交わしていますね。若手の成長をサポートしようというムードが年々高まってきて、頼もしく感じます。

市長 まさに、きらっせプロジェクトの掲げる「学ぶ、働く、活躍する」フィールドづくりが着実に進んでいると思います。今年は、メルカリと鹿島アントラーズのご協力を得て、きらっせプロジェクト特別プログラムを実施します。

永井 若手医療者の教育と支援は、医療者だけでは限界があります。行政と政治の支援がないと難しい。神栖では石田市長が先頭に立って若手医療者の育成に挑んでおられる。私はこれほど熱心な試みを他に知りません。表層的ではなく、多重性、深層性のある支援が継続してい

ます。

市長 産業医研修会では、受講者を土日に工場に招き入れ、実地研修の機会を提供くださるなど、企業や市民が地域医療を理解し、育成にも協力してくれています。

永井 ここ神栖での市民や企業の方々の参加と貢献には、心底感激しています。

市長 専門研修施設の医師が30人増え、市内の人口10万人当医師数も、鹿島労災病院廃止後の88人から令和7年5月推計値では119.9人と31.9人増えています。地域特性を生かした産業医研修においても、今では16人がトレセンで活躍するほどになりました。間違いなく良い流れが出てきていると実感しています。

—シンポジウムの成果—

永井 昨年は、きらっせプロジェクトと地方創生医師団との共催で「地域医療シンポジウム」を開きました。地域医療を志す者を育て、励まし、鍛えるのは市民であることを再認識しようという「神栖宣言」は画期的です。

市長 シンポジウムには、全国から医学生などが30人参加してくれました。実はその後も当市に関心を寄せ、何度も足を運んでくれていますし、そういった医学生の輪が広がっています。市との交流も深まりつつあります。

神栖市若手医師 きらっせプロジェクト

市内専門研修施設、市内外の医療者の参画のもと令和元年度にスタートしたベテランから若手までがワクワクしながら、学び、働き、活躍する環境づくりを目指すプロジェクト。

きらっせプロジェクトHP



メルカリ、鹿島アントラーズFCとの包括連携協定による 〈きらっせプロジェクト特別プログラム〉

特別プログラムⅠ

看護学生の獲得・育成

白十字看護専門学校で実施

- 特別授業
- オープンキャンパス講演
- スタジアムでの学生ボランティアによる熱中症対策活動

特別プログラムⅡ

産業医の育成・確保

- 鹿島アントラーズFCでの産業医実地研修受入
- 地域の魅力PRのための観戦ツアー

石田市長(左)とメルカリ会長兼鹿島アントラーズFC社長小泉文明氏(右)

特別プログラムⅢ

医学生との交流促進

- 地域の魅力PRの一環としての観戦ツアー



日本は現在、少子高齢化に伴うさまざまな問題に直面しています。医療現場も人材や財源の確保に困難を感じるようになりました。しかし、かけがえのない命は何としても守らなければなりません。そのためには、今までとは異なる視点での取組が求められます。

私は、神栖市の医療改革への取組に深い感銘を受け、微力ながら応援してまいりました。行政と医療者、さらに住民が一体となって改革していこうとする姿勢は、全国に類を見ません。若手医師・看護師の育成、学校での医療教育、企業の積極的な協力などが実を結びつつあります。

医療には「人」の力が特に大切です。市民も一丸となって取り組めば、神栖の未来に希望があると信じています。



コーディネーター 永井 秀雄 医師
茨城県立中央病院 名誉院長
練馬光が丘病院 管理者
自治医科大学 名誉教授

永井 今年7月に開催したきらっせプロジェクト推進会議では、トーク&トークとして、プロジェクトの推進委員である先輩医師、そして市民と医学生がグループ討議をして、それを発表してくれました。皆で地域医療を守る、創るという思いが結集したことを嬉しく感じました。

市長 私も、皆さんが大いに語り合い、互いに触発され、そして絆が深まっていく様子に感動しました。皆さんがトーク&トークに参加して、明日につながる思いを何か一つでも持ち帰っていただけたら幸いです。

永井 若手医療者にとって、地方で学ぶ意義は大きいです。もちろん自ら進んで学び取る姿勢は大事ですが、市民と一緒に医療を支える文化が育ちつつある神栖での学びは格別のものだと思います。

一医療教育へのチャレンジ

市長 笠間市の教育委員としての経歴もお持ちで、医療教育の第一人者の永井先生のご指導をいただきながら、当市でも令和4年度から小中学校での医療教育をスタートしました。

永井 協力してくれている済生会、白十字、鹿嶋ハート、トレセンなどのスタッフの皆さんがとても熱心で、教員の方々の強い思いに応えようと頑張ってくれました。

市長 医療者が学習指導要領や教科書を読み込み、自分の知見を盛り込んで、子どもたちに命の尊さを学んでもらう講義を考える。教員と一緒に授業の組立てや注意点を確認し合いながら本番を迎え、そして、全力で子どもたちに向き合う。結果、医療者も元気をもらっているようですね。

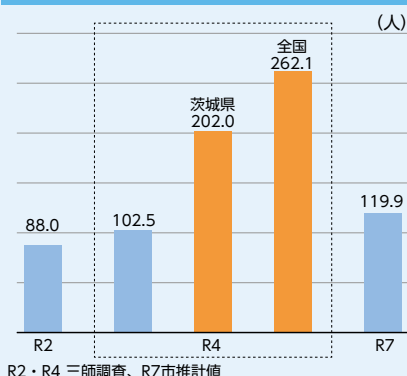
永井 医療教育の醍醐味は「自分の健康は自分で守る、自分でも他の人を助けられる」という思いが育成されることです。子どもたちから事前にもらった問いに、徹夜で回答づくりをしました。きちんとした医療の知識を身につけて命の尊さを知れば、弱者に優しい心を持ち、これからの高齢化社会を支える人材にきっと育ってくれるでしょう。

一神栖市の医療者の頑張り一

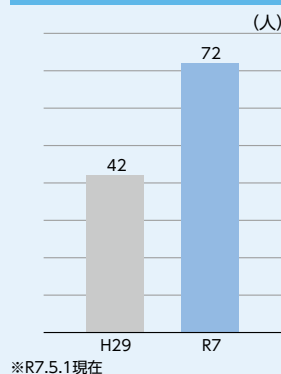
市長 コロナ禍の際には、市内医療者、医師会、消防本部の皆さんに、本当に支えられました。感謝の念でいっぱいです。

永井 コロナ禍や物価高など厳しい社会情勢の中でも、白十字は回復期・慢性期病棟の建て替えを敢行され、鹿嶋ハートではHCU病床や手術室の拡充と病院化を成し遂げましたね。済生会は、従来の倍近い2,000台以上の

神栖市の人口10万人当 常勤医師数



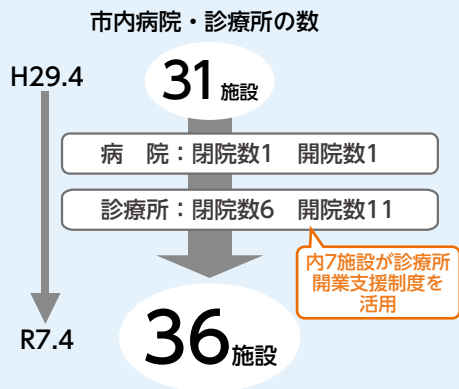
市内専門研修施設の 常勤医師数



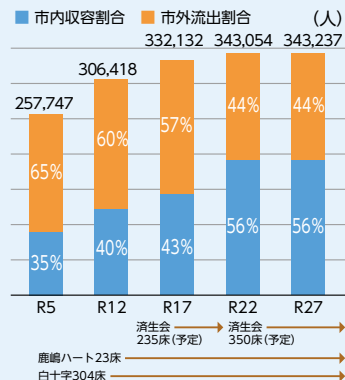
地域医療トーク&トーク

昨年度の地域医療シンポジウムの神栖宣言を踏まえて、地域医療を志す学生の応援、学生・市民・地元医師とのトーク機会の提供を目的として、本年7月に開催。神栖市を応援してくれる全国の学生、市民、きらっせプロジェクト推進委員の医師及び病院スタッフ、市長や事務局など約40人が一堂に会し、グループ討議、発表などを行ないました。討議テーマの一つである「人生会議(ACP)について」の意見は11ページを参照。

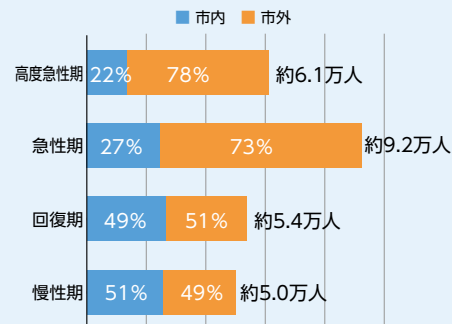
病院・診療所数の推移



神栖市延入院患者数将来推計



R5年度 重症度別市民入院割合



救急車を受け入れています。診療所も、小児科や眼科、内科、外科などが新規開院し、既存の診療所も診察能力の拡大を図ったと伺いました。市の様々な支援制度が背中を押したと思いますが、医療者自身の覚悟が素晴らしい。感服しています。



一山積する課題への挑戦の継続

市長 企業や市民の皆さんからは、労働災害への対応、特に24時間365日体制の救急医療の提供が求められています。

永井 医療資源が豊富な都市でも、そう簡単にうまくいっている訳ではありません。自分の病院、自分の診療にしか関心がない医療者では奥深く複雑な地域課題へ目が向きにくいです。医療体制を支えるのも、新しい体制を作っていくのも「人」です。意見交換会やプロジェク

トを通じて、神栖市の医療者は、皆さん高い志を持っていると感じます。

市長 広い視野で地域課題を見て、そして貢献したいというマインドで臨んでくれる医療者に励まされます。企業の要望に応え、熱傷や薬傷といった労働災害を市内で対応するため症例検討会をやろうと、市内の医療者から発案がありました。

永井 行政がリードして、市民や企業と医療者の協力関係を築こうと頑張っておられる。そして、提案された症例検討会を行政がしっかりフォローして事業化できる力も大きいと思います。簡単なことではありません。神栖ではそういう取組を皆が協力連携してチャレンジする風土が定着し始めていると思います。

市長 ありがとうございます。一方、入院患者や救急患者の市内受入能力などを見ますと、再編統合による新病院整備は最重要課題ですし、周産期体制の強化、臨床研修病院の創設をはじめとして、解決しなければならない問題は少なくありません。

永井 いろいろな立場の方々の賛同を得て、裾野を大きく広げて、理想とする山頂を目指していきましょう。

市長 永井先生のご助力をはじめ、皆さんの力を結集していただいて、全員参加で、あるべき医療体制の実現に向けて一步一步登っていききたいと思います。

(この対談は令和7年3月、6月、7月に行なわれたものをひとつにまとめたものです。)

茨城県修学生医師の二次保健医療圏別配置状況比較

医療圏名	臨床研修病院数	R7 修学生医師数(総数352人)
水戸	5	89
日立	1	36
常陸太田・ひたちなか	1	23
鹿行	0	5
土浦	2	10
つくば	4	90
取手・竜ヶ崎	6	51
筑西・下妻	0	3
古河・坂東	2	20

その他(県外猶予等)25人

市修学生

R7.7現在

【医師】

医師	6人
医学生	10人
合計	16人

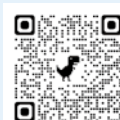
【看護師】

看護師	4人
看護学生	2人
合計	6人

※ほか義務履行終了
看護師 7人

第五回上手な医療のかかり方アワード

上手な医療のかかり方における総合的な制度設計が優秀な取組として評価され、県内自治体で初めて厚生労働省医政局長賞を受賞しました。



メッセージ

～市内で活躍する若手医師～



故郷で医療に携われる喜び

白十字総合病院
すだ あゆみ 医師

神栖市は医療過疎地域であり、医師不足である現状です。皮膚科診療を行っている病院やクリニックも数少なく、皮膚科疾患でお困りの患者さんが多いということを耳にします。白十字総合病院での皮膚科診療は今までは週1回でしたが、今年度から私が常勤医師として毎日診療を行なっています。日々患者さんの悩みに寄り添いながら診察することを心掛けています。

私は潮来市で生まれ育ちました。自分の故郷である鹿行地域の医療に携われることを大変うれしく思っています。これから地域の皆様に貢献できるよう、頑張っていきたいと思っております。皮膚のことでお困りのことがありましたら是非来院いただければと思います。

地域に根ざした医療を目指して

神栖済生会病院
ともえ ゆうき 医師

今年の3月末で後期研修(専門研修)を修了し、総合診療専門医、新・家庭医療専門医の資格を取得予定であり、将来的には在宅医療専門医を取得したいと考えています。

神栖済生会病院の特色の一つとして、医師が直接患者さんのお宅や施設に訪問して診療する「訪問診療」が挙げられます。病院の診察室や病室ではなく、患者さんの生活の場で診療させて頂くことで、より「生活をサポートする」という観点から、患者さんやご家族、他の医療職と一緒に治療方針を考えています。

神栖市は、医療への関心や期待が高いと感じています。医療資源が少ない地域だからこそ、試行錯誤しながら地域に根ざした医療を提供していくやりがいがあります。同じ志を持った医療者と、神栖市を盛り上げていきたいです。



長く健康に働ける社会を作りたい

神栖ワーカーズクリニック
かめやま よしと 医師

私は産業医・労働衛生コンサルタントであり、労働衛生の専門家として、現在6社の嘱託産業医を務めています。大規模な化学工場から小学校まで、幅広い事業所で働く皆さんの健康を支えています。

神栖市は多様な産業が集積する街。だからこそ「この街には産業医が必要だ」と強く感じています。働く人々の健康こそが、この街の産業を支える基盤。その重要な役割を担っているという実感が、私の仕事のやりがいです。

さらっせプロジェクトでは、産業医を目指す若手医師にOJTを通じて実務を共有し、次世代の育成にも力を入れています。私の目標は「長く健康に働ける社会を作る」こと。産業医として、神栖で働く皆さんが生き生きと仕事を続けられるよう、これからも尽力していきます。健康な職場づくりを通じて、この街の発展に貢献できれば幸いです。



患者さんの人生に寄り添う医療提供を

神栖済生会病院
さとう るみ 医師

総合診療専門医・新家庭医療専門医取得済、来年度の在宅医療専門医取得を目指しております。神栖済生会病院の総合診療科では、外来(救急)診療/入院/在宅医療を主に担っております。特に当科では、神栖市第二・第三圏域を中心に、通院が難しくなった方、医療的ケアが必要な方、病院でなくお家で最期を穏やかに過ごしたいご希望のある患者様などに対して、医者や看護師がお家に訪問し診療する「訪問診療」を行っている特色があります。

患者さんの人生に寄り添いながら多職種で関わり、適切な医療を提供し、患者さんのより良い生活や満足に繋がる瞬間にやりがいを感じます。

地域を代表する病院として、今後も地域の皆様や医療機関との連携を大事にしながら、皆様が最期まで安心して過ごすことのできる住み良い地域になるお手伝いをできればと思っています。



メッセージ ～医療を支える看護職～

「人を見ること」を大切に

白十字総合病院 看護部

白十字総合病院看護部では、『患者さま一人ひとりを尊重し、地域のニーズに応えられる安全で質の高い医療・看護を提供します』を理念とし、急性期から回復期、在宅療養へと切れ目のない医療・看護を提供できるよう、日々取り組んでいます。回復期に当たる地域包括ケア病棟では、入院患者さまだけでなく、在宅療養されている方のご家族など、介護者の休養を目的とした短期入院(レスパイト入院)の受け入れもしています。

また、当院は地域で安心して出産できる市内唯一の分娩施設であり、生後4か月までの赤ちゃんとお母さんの心身回復のサポートとして、産後ケアも行なっております。

これからも、皆様が安心して生活できるよう、地域のニーズに沿った包括的ケアを整え、看護の原点ともいえる「人を見ること」を大切にに取り組んでいきたいと思ひます。



安心と健康を支える存在でありたい

神栖済生会病院 看護部

私たちは、済生会の「施薬救療」の精神を大切にし、地域の皆さまが安心して暮らし続けられるよう、思いやりのある看護を提供しています。患者さま一人ひとりの尊厳を大切にし、確かな知識と技術、温かな心で、質の高いケアを届けることを使命としています。地域の中核病院として、チーム医療を推進し、救急患者の「不応需」が起きないように体制を整え、誰もが安心して医療を受けられるように努めています。

住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを続けることは今後ますます重要です。私たちは地域包括ケアの視点を持ち、在宅支援や地域連携にも力を入れています。顔の見える関係を築き、医療・看護を通じてまちの安心と健康を支える存在でありたいと考えています。

地域住民や患者さんから愛される病院を目指して

外来では採血や検査の説明と介助、点滴治療の補助などを行ないながら、患者様に気軽に相談していただける環境づくりをしています。入院では循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科の様々な専門的な治療を行なっている中で、入院患者さんが安心して検査・治療に臨めるように説明や援助をしております。医師をはじめ、他部門のスタッフにも気軽に相談ができ、患者さんやご家族の疑問や不安などにも迅速に対応することが出来るよう努めています。

医療・看護は年々進化している中でより患者さんに近い存在である私たちは、知識・技術のスキルアップをすると共に、患者さんに寄り添い思いやりを持って看護を提供することで、地域住民の方々や患者さんから愛される病院を目指しております。

鹿嶋ハートクリニック 看護部



看護職・歯科衛生士 合同進学・就職相談会の開催

市内医療機関や看護学校のブースを設置した相談会を開催しています。

今年度は、歯科衛生士も対象に加えて開催します。

〈令和7年度開催内容〉

開催日 令和7年9月27日(土)

場所 かみす防災アリーナ 研修室

参加施設 白十字総合病院、神栖済生会病院、鹿嶋ハートクリニック
渡辺病院、神栖メディカルクリニック、白十字看護専門学校
神栖市歯科医師会

※詳細は、広報かみす、市ホームページ等でお知らせします。

歯科診療所に必要な歯科衛生士も不足しており、今年度から進学・就職相談会に参加します。
歯科衛生士に興味のある方のご参加をお待ちしています！



神栖市HP



神栖市歯科医師会 会長
鈴木 伸之 歯科医師

小児診療体制の強化促進

神栖市では、令和6年度から市内の小児診療体制を見直し、医療機関同士が協力しながら、より安心して子どもを診てもらえる仕組みを整えています。第8次茨城県保健医療計画では、神栖済生会病院が、地域の入院診療や救急診療を担う地域小児救急センターとして位置づけられています。

地域小児救急センターとしてのミッションと貢献

神栖済生会病院は、地域小児救急センターとして、地域のお子様に対して24時間365日の小児救急医療を提供しております。

市内の医療機関、医師会、何よりも市民の皆様のご協力をいただき、診療所や休日当番医に初期診療や軽症の救急対応をお願いし、当院は救急車や各医療機関からの紹介・転送など、対応の難しい小児疾患の診療を中心にこなしております。

一方で、神経・発達、循環器、内分泌、腎臓、小児外科疾患に各領域の専門医師による専門外来も開設しています。最近では医師確保、より精度の高い診療機器の導入など、診療体制の拡充を進めています。

今後も診療体制の更なる充実に努め、神栖市における小児医療の維持・向上、市民の皆様の安心・安全に貢献してまいります。



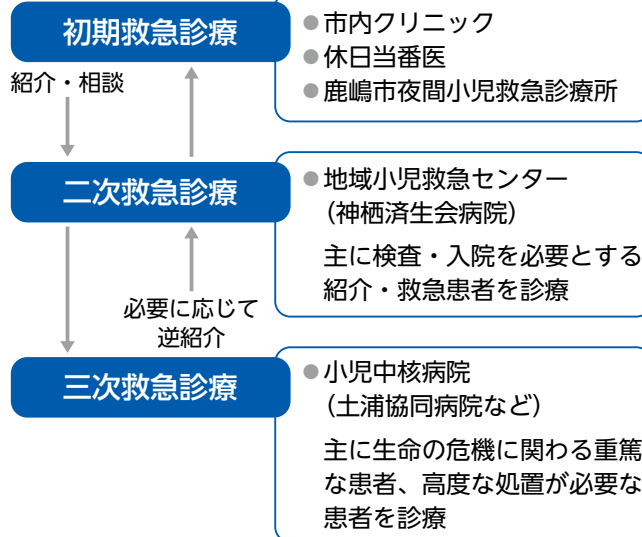
神栖済生会病院
院長 金沢 義一 医師

小児科主任部長
辻脇 篤志 医師 (左)

神栖市の小児診療体制

	月～土	日	祝・年末年始
8:30～20:00 (昼休等含む)	小児科標榜医療機関	小児科標榜医療機関 鹿島医師会休日当番医 9:00～16:00	
20:00～23:00	鹿嶋市夜間小児救急診療所 (365日) ※		
23:00～翌8:30	神栖済生会病院 (365日)		

※鹿行5市(神栖、鹿嶋、潮来、行方、鉾田)の協定により運営している診療所



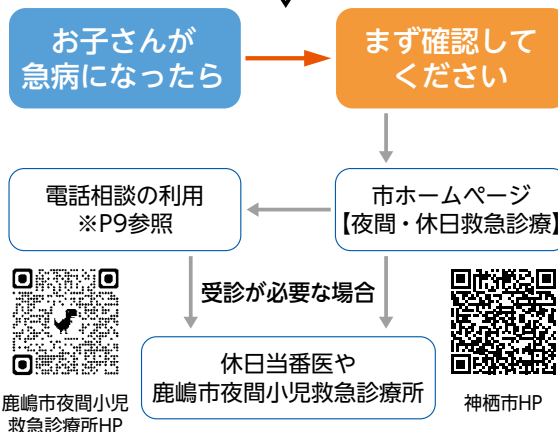
地域で支える子どもの医療

令和7年5月15日、神栖市役所にて「第3回 小児診療体制に係る意見交換会」を開催し、市内の小児科医療機関や休日当番医などが集まり、体制の現状や課題、連携について意見交換を行いました。

今後は、神栖済生会病院が中心となり、さらなる診療体制の強化を目指して、小児症例検討会を開催していくこととなりました。



夜間・休日のこどもの急な病気、 どうする？



連携による救急医療体制の充実



救急医療ワーキングチーム会議
座長 黄 恬瑩 医師
(医療法人玉心会 理事長)

救急医療ワーキングチーム会議では、市内の救急病院や診療所、消防本部、行政が一堂に会し、課題や解決策を話し合っています。望ましい体制に向けた長期的な対策と、日々発生する救急に対して現体制の中でベストパフォーマンスを発揮させる方法、両方の視点からの協議検討が大切です。

当市の救急にとっては「連携と協力」がキーワードです。これまで、救命救急センターなどへの転送ルールづくり、病院や診療所の役割分担、救急隊と医師を直接結ぶホットラインの設置、受入れ可否情報の適切な発信の仕方などに取り組んできました。

また、受け入れを断った全事例を検証し、明日へ備えました。メンバーの発案により、専門医でなくても熱傷や薬傷の軽症患者は市内で受けられるよう、医師や看護師、救急隊、企業の担当者を対象とした勉強会をスタートしました。

救急医療ワーキングチーム会議の協議内容(令和6年度)

24時間の救急体制整備

24時間対応

消防本部から、「日勤・夜勤の医師の交代時間」に不応需が発生しやすいという課題が示され、この時間帯の受入体制の工夫について要請がありました。

救急受入要請の時間短縮

時間短縮

ホットライン未対応の医療機関から、可能な範囲で医師が直接電話対応できるよう検討する意向が示されました。

小児救急体制の課題

体制強化

当地域では地域小児救急センターであっても内科系医師が中心のため、外科系疾患の受入が困難となっている課題が示されました。

開放骨折・消化管出血への対応

優先課題

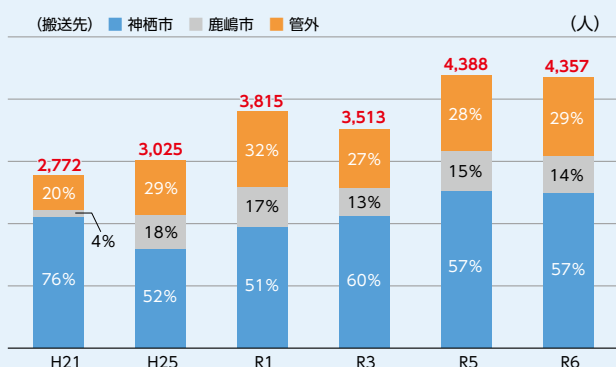
当地域で対応が困難となっているこれらの疾病について、消防本部からの要請を踏まえ、専門部会を設置して具体的な対応を検討します。

熱傷・薬傷の診療の拠点を目指して

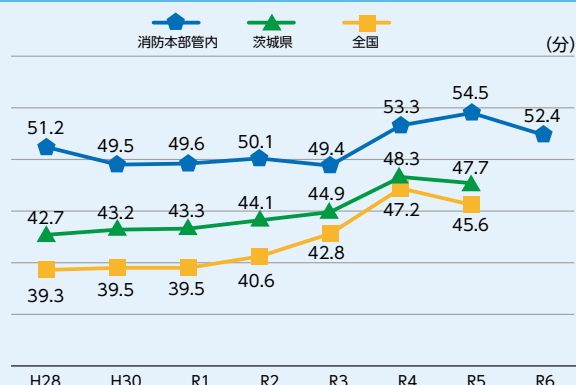
産業都市ならではの「熱傷・薬傷(化学熱傷)」にしっかり対応できるよう、市内の医師の声をきっかけに、令和5年度から勉強会をスタートしました。これまでに5回開催し、延べ739人が参加しています。将来は熱傷や薬傷の診療の拠点となれるよう医療者、企業の担当者、救急隊が参集し、基礎的な治療の知識を学びながら、救急患者の受入体制づくりを進めています。



神栖市発生救急搬送患者数



病院収容平均所要時間



安全安心に向けた救急体制の推進

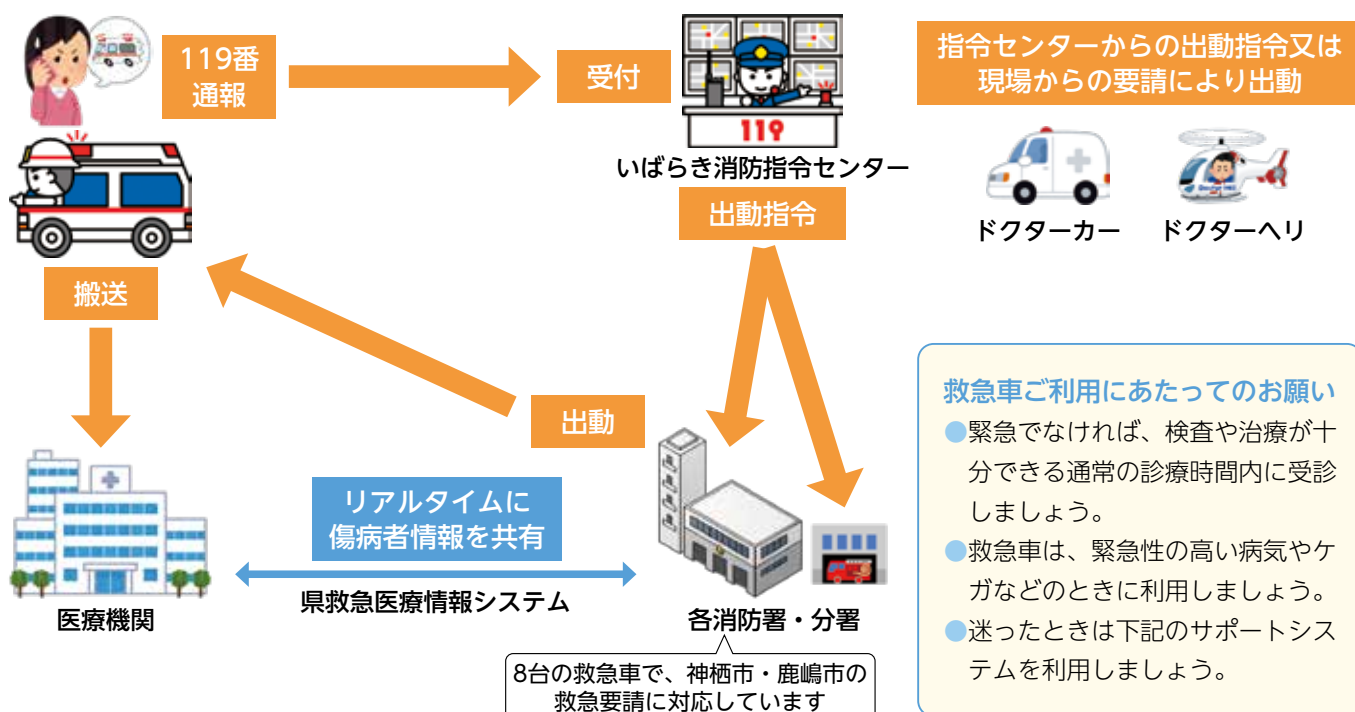
救急体制の強化と搬送時間の短縮は、地域医療の質を高め、命を守るために不可欠です。現在、救急搬送における課題として、医療機関収容までの時間が長く、搬送中に容態悪化してしまうリスクが指摘されています。これに対し、私たちはドクターヘリ、ドクターカーの活用、また、リアルタイムで医療機関の受入状況が把握できる情報システムを使用し、適切な医療機関の選定及び搬送に取り組んでいます。

今後も、地域住民一人一人の皆様が安心して暮らせるよう、行政、医療機関、消防が一体となり強固な体制を継続していきたいと考えています。全ての人が必要な時に必要な医療を受けられる社会実現に向け、努力してまいります。



鹿島地方事務組合消防本部
消防長 武藤 隆

通報から救急搬送までの流れ



救急車を呼ぶか迷った時の緊急時サポートシステム

種類	名称	電話番号、QRコード	内容
電話相談	かみす健康ダイヤル24	0120-1331-69	24時間 年中無休 医師や看護師などが対応 急病以外も相談可 医師や看護師などが対応 たばこ・洗剤等の誤飲、 中毒について
	茨城子ども救急電話相談	短縮ダイヤル#8000	
	茨城おとな救急電話相談	短縮ダイヤル#7119	
	つくば中毒110番	029-852-9999	
	大阪中毒110番	072-727-2499	
	たばこ誤飲事故専用電話(自動音声)	072-726-9922	
冊子	救急受診ガイド(家庭自己判断)	消防庁HP	症状と緊急度のめやすを掲載
	子どもの救急ってどんなとき?	茨城県HP	急病時の家庭での対処法、救急外来を受診する際のポイント、よくある質問を掲載
ホームページ	こどもの救急	日本小児科学会HP	具体的な症状と対処方法を掲載
無料アプリ	Q助	消防庁HP	症状などから、緊急度に応じた必要な対応を表示。119番通報や医療機関の検索も可

電話相談やアプリを活用しても迷うときは、ためらわずに救急車を呼んでね!



高齢者に優しい医療体制づくり

神栖市民の延入院患者の約3分の2が、また、総救急搬送患者の半数以上が65才以上の高齢者です。急性期医療から回復期、慢性期、在宅医療まで、そして救急医療においても、医療提供体制の整備がそのまま高齢者医療の充実に直結します。さらに高齢化の進展に伴い、入院医療を担う病院と外来診療や在宅医療を担うかかりつけ医の一層の連携強化も不可欠なものとなっています。



白十字総合病院
院長 鈴木 善作 医師

高齢者救急の受入強化

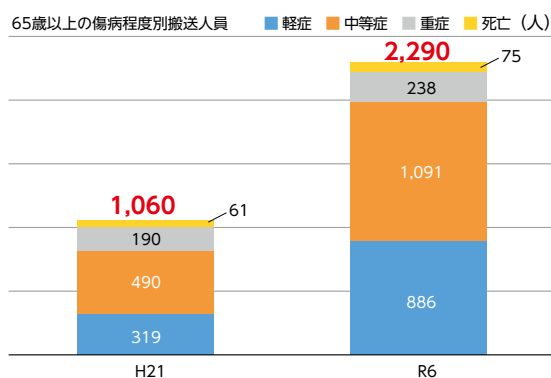
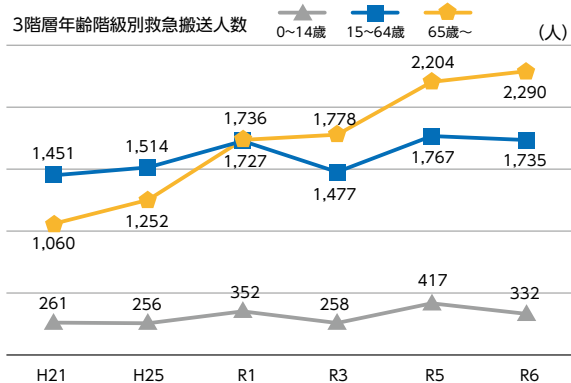
白十字総合病院は、急性期・回復期(地域包括ケア病棟)・慢性期と3種類の病棟を有しており、救急医療から長期入院医療まで一貫した医療提供が可能です。近年、高齢化社会が進むにつれて高齢者の救急受入が課題となっておりますが、当院では地域の高齢者施設と連携協定を結ぶなど、高齢者救急受入体制の充実に取り組んでおります。

また、2024年11月にリニューアルオープンした新病棟(164床)につきましては、130床が回復期と慢性期の病床であり、在宅療養を望む方、入院での長期療養が必要な方への支援にも力を注いでおります。今後も救急医療の充実はもちろんのこと、地域の皆さまにとって必要な医療を提供する病院を目指してまいります。

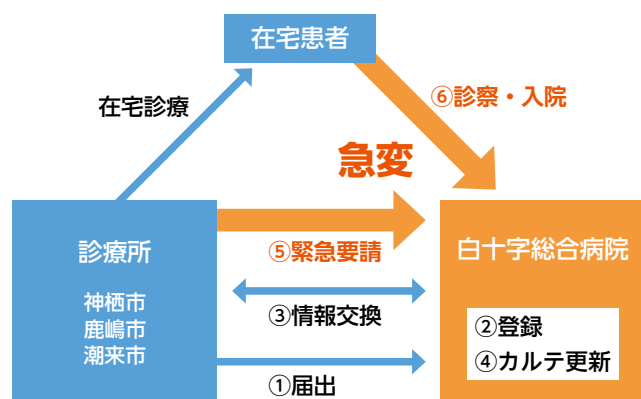


白十字総合病院
新病棟

年齢階級別市内発生救急搬送の推移



在宅患者のための病診連携による安全安心な入院受入システム



神栖市内では、白十字総合病院と神栖済生会病院が「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」として位置づけられています。

白十字総合病院では、在宅医療ワーキングチームでの試行を経て、令和4年度に在宅患者の急変時に円滑な診療や入院を提供するための入院受入システムを構築しました。具体的には、診療所の届出により把握した患者情報を院内に登録しておき、急変時に最優先で対応できるよう備えています。これにより、同院に受診歴がない救急患者もすみやかに入院を受け入れることができています。

人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)

将来、病気や介護が必要になるようなものの時に、どこで、どのような医療・ケアを受けたいかを、自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人と共有しておくことを「人生会議」(ACP)といいます。

【私の生き方ノート】

ご自身の人生を振り返り、これからの人生のあり方を考えるきっかけとなるよう、「私の生き方ノート」を作成しました。

ご自身の気持ちを整理するため、もしもの時のご家族や周りの人に気持ちを伝えるためなど、ご希望に応じてご利用ください。



ACPは“あなたらしく生きる”ための対話を支える大切な手段です。

私たちは、患者様を決してひとりにしないことを信条とし、患者様の想いや価値観に寄り添いながら、あなたとご家族が納得できる医療的支援を提供したいと考えています。

あなたの大切な想いを、ACPを通じて、ぜひ私たちにお聞かせください。



在宅医療ワーキングチーム会議
座長 ^{ながしま}長島 ^{えいいち}英一 医師
(神栖メディカルクリニック 院長)

※個人情報が含まれますので、ご記入後の管理にはご注意ください。

トーク&トークの
意見より
※P 3参照

人生の段階ごとで
気持ちの変化はある。家族と何度も
話し合うことが大切。

ACPが無いと、患者より家族が後悔
する可能性が高い
のでは。

臨床現場も勉強不足。ACPの文化を
創っていくことが
大切。

もしもの時に、当
人の価値観を理解
していない状況で
家族に決定を迫る
のは酷なこと。



さらなる進化を目指してトライ＆チャレンジ

心臓血管外科の緊急手術の体制づくりを推進中

鹿嶋ハートクリニックは、昨年11月に循環器疾患の高度急性治療を担う病院となり、4床のHCU(高度集中治療室)を増床するとともに、手術台とX線装置を組み合わせたハイブリッド手術室を2室に増設しました。病院化したことで、高度な治療の基準を得ることができ、今まで診療所ではできなかった治療を行なえるようになりました。また、心臓リハビリテーションも強化し、循環器疾患の重症化予防や再発防止にも努めております。さらにハートチームを結成し、看護師をはじめとした医療スタッフとの連携と教育にも力を入れ、今年5月に24時間365日の救急受入体制を構築することができました。

今後は、市内で行なうことができなかった、大動脈解離などの心臓血管外科の緊急手術が対応可能な体制づくりを行ない、地域の皆様により信頼され、安心して生活できるための病院を目指して尽力してまいります。



鹿嶋ハートクリニック
院長 樋口 和彦 医師

産業医とオンライン診療をつなげた医療を展開

救急救命医として名古屋で働いておりましたが、次から次へと運ばれてくる患者さんに対応して強く思ったのが「なぜ、ここまで放置していたのか」という疑問でした。治療しない高血圧の方、がん検診で指摘されたのに精密検査を受けない方、お酒やタバコの害を指摘されても止めなかった方。その方々が救急で運ばれてきて後悔されるのを毎日見てきました。神栖市は喫煙率も高く、がん検診受診者も少なく、要治療者なのに治療を受けない方も7割を超えます。

神栖市は医療が少ないですが、予防といつでも受診できる環境を普及します。産業医とオンライン診療をつなげた医療を日本の先駆けとして展開していきたいと思います。



神栖産業医トレーニングセンター
統括指導医 田中 完 医師

産業医学基礎研修会・産業医トレーニングセンター

企業の皆様のご支援により、とても魅力のある研修会として、全国に広くアピールできています。これまでの5年間で39都道府県、延べ4,122人の方が神栖市を訪れ受講されております。この研修会をきっかけに神栖産業医トレーニングセンターに就労する医師も増えております。

【受入協力企業等】※50音順、敬称略

- | | | | |
|--------------|-----------------|----------------|----------------|
| ● AGC | ● DIC | ● ENEOSマテリアル | ● JERA |
| ● LSIメディアエンス | ● ウエルシア | ● エーザイ | ● 花王 |
| ● 鹿島アントラーズFC | ● 鹿島石油 | ● 鹿島地方事務組合消防本部 | ● 鹿島埠頭 |
| ● カネカ | ● クラレ | ● ケイミュー | ● 三洋化成工業 |
| ● 信越化学工業 | ● セブン-イレブン・ジャパン | ● ダイキン工業 | ● 中国木材 |
| ● 日本製鉄 | ● 三菱ケミカル | ● ユポ・コーポレーション | ● 横河NSエンジニアリング |
| ● ライオンケミカル | | | |

25社

外国人のみなさんも安心して暮らせるまちへ

市では農業や漁業をはじめ、さまざまな産業の現場で外国人の方々が大切な役割を担っています。こうした国際化の進展を踏まえ、さまざまな立場の方々と意見を交わしながら、外国人の方への円滑な医療提供に向けてどのような支援や仕組みが必要か考える「調査研究」を始めたところです。

今後は実態調査や研修会を行ないながら、外国人の方への医療提供体制づくりを進めます。

